

淑女検定

✓ チャレンジテーマ

和太鼓

ドンドコドン。大地の鼓動のような和太鼓の重低音は、人々の心をつつ。言わずと知れた日本の伝統楽器だが、いい音が出せるまで3年以上かかるという。誰かにちょっと自慢したくなる和太鼓の話。



ドコ〜ンコドコ

問題 1 気合を入れて演奏すると汗だくになる和太鼓。一番使うのはどの筋肉？

- A. 顔 B. 二の腕 C. 背中 D. お尻

問題 2 和太鼓は、打ち込んでいっているうちにいい音色になっていく。その目安とは？

- A. 太鼓の革が一皮むけた時 B. 胴の木があめ色になった時
C. 使い始めて20年経った時 D. 明らかに重くなった時

問題 3 これを知っていれば和太鼓通。鑑賞する際に最も注目すべき点とは？

- A. ばちが天を向いているか B. 道具を大切に扱っているか
C. 達人の表情をしているか D. 遠くまで音が届いているか

SBS学苑
静岡校

今月の
先生



【和太鼓】講師
中野 千恵子 なかの ちえこ
日本太鼓財団公認指導員

初めて太鼓を打つ方でも大丈夫。ばちの持ち方、構え方、腕の振り方など、日本太鼓の基礎から指導。

SBS学苑静岡校
INFORMATION

第1水曜日 19:00~20:10

和太鼓(水曜クラス)

入会金/3,240円(全講座共通)
受講料/11,988円(6カ月・6回・管理運営
費含む)バチ代別途

スポーツ傷害保険/500円(1年間)
講師/中野千恵子(日本太鼓財団公認指導員)

打ち方だけでなく知識も学べる講座。

【お問い合わせ・お申し込み】

Tel.054-282-1191

正解 & 解説

問題 1 → 正解 D

和太鼓演奏では一番使う筋肉は下半身。特にお尻の内側の筋肉が鍛えられる。基本姿勢は肩幅より広く立ち、威張るように胸を張って構える。腕や手に力を入れ過ぎず、ゴルフなどのスポーツと同じように、打つ時だけぐっと力を入れる。その絶妙な力の抜き加減を習得するには何年もかかるという。6尺(約180センチ)もある大太鼓をたたくと、体がよろめくほどの空気圧を受けるという。

問題 2 → 正解 A

新しい時は革がピンと張って高音だが、3~5年打ち込んだころ、革の表面がうっすらはがれる。こうなると程良い重量感のあるいい音色を放つ。胴と呼ばれる木の中はくりぬかれ、音が響くよう特殊な溝が彫られている。これを彫る職人の腕次第でも音色は変わる。打ち込んでいくと革も緩み、10年ほどで寿命が来るという。材質は色々あるが、革は黒毛和牛、胴はケヤキ、バチはカシが最上級とされる。

問題 3 → 正解 B

地域に伝わる和太鼓のルーツをたどると、神社やお寺にたどり着く。神聖な楽器だけに、丁寧に扱ってこそ一人前。太鼓を運ぶ時やばちを置く時にそれが分かるという。「そこから演奏者の気持ちが伝わります。一生懸命さが人の心をつつんです。誰でも音が出せる楽器ですが奥が深い」と中野先生。その昔、和太鼓に譜面はなくすべて口伝だった。ドンドコドンと表現する場合、ドンは右、コは左を意味する。